

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第1回アスリート部会 意見要旨

①アスリートファーストの視点で大会への意見・アドバイス

<選手村について>

- ・選手村に家族や子ども達と交流できるゾーンを設置してほしい。(狩野委員)
- ・選手村から会場へのアクセスをスムーズにしてほしい。(狩野委員)
- ・宿泊施設における防音設備や部屋割りなどに気をつけてほしい。(風間委員)
- ・選手村から離れた競技会場の近くに選手がリラックスできる施設を設置してほしい。(川端委員)

<競技施設について>

- ・アスリートの意見をしっかりと取り入れてほしい。(鈴木副部会長、川端委員、原田委員、森委員)
- ・競技施設内に待機やコンディショニングのための場所を確保してほしい。(牛島委員、佐藤委員)
- ・円滑なセキュリティチェックをお願いしたい。(風間委員)
- ・通年利用できる競技施設を検討してほしい。(戸城委員)
- ・競技施設を早くオープンし、本番と同じ環境で練習できるようにしてほしい。(深澤委員)
- ・ノルディック複合ではジャンプとクロスカントリーの競技会場を近くに配置してほしい。(森委員)
- ・フリースタイル、スノーボードの競技環境を整備してほしい。(工藤委員)
- ・ソリ競技会場には上り坂があるので、安全対策をしっかりとしてほしい。(牛島委員)
- ・札幌で質の高い氷を作れるようにならなければならない。(佐藤委員)

<パラリンピックについて>

- ・パラリンピックに対応した施設を整備してほしい。(永瀬委員)
- ・パラリンピック競技のクロスカントリーとバイアスロンの選手は重複が多いため、同会場で行うべきである。(永瀬委員)
- ・パラリンピック競技は数や名称の変化が激しいので、配慮してほしい。(永瀬委員)
- ・2020 東京オリパラでは「バリアフリー」ではなく「アクセシビリティ」という言葉が主に使われている。(永瀬委員)

<その他>

- ・各競技に最適な天候となる時間帯や日程で行ってほしい。(川端委員、原田委員)
- ・競技時間を調整し、選手や観客などが混雑しないようにしてほしい。(牛島委員)
- ・予算が増えないように注意し、情報公開するべきである。(永瀬委員)

②アスリート部会の今後の活動についての意見

<招致気運の醸成>

- ・ 冬季競技全体で活動しなければならない。アスリート部会としての活動をアピールするために名刺を作成したい。(牛島委員)
- ・ 市民・道民の関心を高めるためにシンボルバッジなどを作成し、アスリートが招致について説明するべきである。(原田委員)
- ・ 町内会などの身近な場所や SNS、新聞広告などでアスリートが協力していることを示しながら招致活動を行うべきである。(立崎委員、目黒委員、永瀬委員)
- ・ スポンサー獲得にアスリートを活用してほしい。(風間委員)

<アスリート目線の意見>

- ・ 競技団体とのパイプ役として協力したい。(目黒委員)
- ・ オリパラ開催後に何を残すかを考えなければならない。(佐藤委員)
- ・ 市民負担の説明が重要であり、アスリートからも説明できるようにならないといけない。(川端委員)

<世界に向けてのアピール>

- ・ 冬季アジア大会や IPC ノルディックスキーワールドカップなどをアピールして、オリパラ招致につなげたい。(稲田委員、加藤委員)
- ・ ワールドカップやジュニア大会等の開催実績をつくり、オリパラ招致につなげたい。(滝下委員)
- ・ アスリートが札幌の魅力や札幌でオリパラを開催する素晴らしさを伝えるべきである。(山崎委員、松沢委員)

<ウィンタースポーツの振興>

- ・ 競技人口の増加や継続率の上昇に向けた活動に取り組むべきである。(佐藤委員、松沢委員)
- ・ 子ども達が楽しく安全に競技を行える環境を整えなければならない。(工藤委員)
- ・ 解説付の観戦や体験会での指導など、子ども達がウィンタースポーツに興味を持ち、始めるきっかけとなるイベントに参加したい。(川端委員、森委員、山崎委員、稲田委員、船山委員、狩野委員)
- ・ オリパラ教育へ積極的に参加するべきである。(目黒委員、加藤委員、永瀬委員)

<アスリートの発掘・育成>

- ・ 10年後を見据えた選手の育成のためにアスリートがジュニアの合宿に訪れるなどの活動を行うべきである。(上島委員、目黒委員)
- ・ 夏季競技との交流を増やし、選手の発掘につなげたい。(牛島委員)
- ・ 基金など選手育成のサポートを検討しなければならない。(深澤委員、稲田委員)
- ・ 夏季オリンピックの成功を参考にして、ナショナルトレセンを札幌に誘致したい。(出口委員)